

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 若園 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

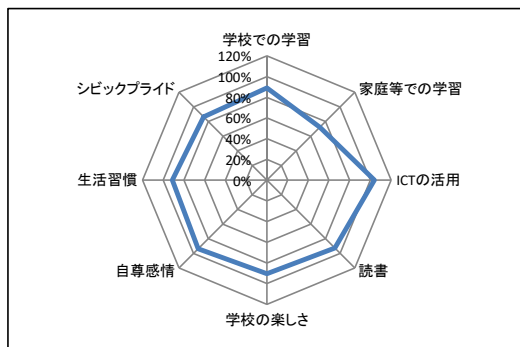
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回った。問題文から適切な言葉を選んだり書き出したりする問題は、よくできていた。段落相互の関係を捉えたり、文章と資料を結び付けて考えたりすることに課題がある。また、最終問題の無回答率が高かった。問題文を読む速さや各問題を回答する際の時間配分に対する課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	時間的な順序や事柄の順序などを考え、書かれている内容を捉えたり、適切なものを選択したりする問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、必要な情報を見つける問題。文章の構成を考える問題。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回った。異分母分数の計算の正答率が高いが、その仕組みを問われる問題の無回答率が高く、正答率も低かった。思考力を問われる問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	異分母分数や小数の加法計算。比例に関する問題。角の大きさに関する問題。	
	努力が必要な問題	分数の仕組みに関する問題。数量の求め方や答えを選択した理由などを言葉や式、数で記述する問題。	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回った。「地球」を柱とする領域において、正答率が高い。「エネルギー」や「生命」を柱とする領域における知識や技能に課題がある。また、無回答となった問題が多かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	水のしみ込み方の違いについて、実験方法を考えたり、結果を予想して表現したりする問題。	
	努力が必要な問題	電気の回路のつくり方について、実験方法を発想する問題。電気を通す金属や磁石に引き付けられる金属、顕微鏡を正しく操作するなどに関する知識や技能を問われる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> 「学校の授業でのICT機器活用」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の問いに対して90%以上の児童が肯定的に回答している。 主体的・対話的な学びや個別最適な学びが、児童の自己有用感等につながると考え、今後も学校全体で授業の改善を進めていく必要がある。 「学校の授業以外の1日当たりの勉強時間」（塾等を含めた家庭での学習）に関する問いに対して、1時間以上と回答した児童の割合が低かった。（約34%）家庭学習は、本校全学年の課題であり、主体的に学ば力をつけるとともに、家庭へ啓発し、協力を仰いでいく。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童の割合が低かった。家庭の協力が必要である。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 授業改善を進め、児童が「分かった」「できた」と思える授業づくりに取り組んでいく。
- 専科指導や持ち合い授業を充実させていく。
- 全国学習・学力調査結果からの課題を教職員間で共有し、研修を行う。スクールプランの見直しを行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の定着
 - ・宿題の内容や量の見直し
 - ・家庭学習（自主学習）の意義などの発信（学年・学級通信等）
- 生活リズムが整った健康な生活づくりに向けての取組の継続
 - ・保健だよりと食育だより
 - ・栄養教諭による食育指導
 - ・養護教諭による保健指導